

株式会社ライフコーポレーション

持続可能で豊かな社会の実現に貢献する 食品廃棄物削減の取り組み



ライフコーポレーション

近畿圏169店舗、首都圏144店舗、合計313店舗
(11月30日現在) を展開する食品スーパーマーケット



【経営理念】

「志の高い信頼の経営」を通じて
持続可能で豊かな社会の実現に貢献する

【持続可能で豊かな社会の実現】

コミュニティの人々が「楽しく」「安心して」
「健康的な」生活を営むことができる

+

地球環境、社会が
健全であること

安定的・継続的な店舗運営、安全・安心で高品質な商品・
サービスの提供とともに、**地球環境と社会の課題解決**に努める

食品廃棄削減

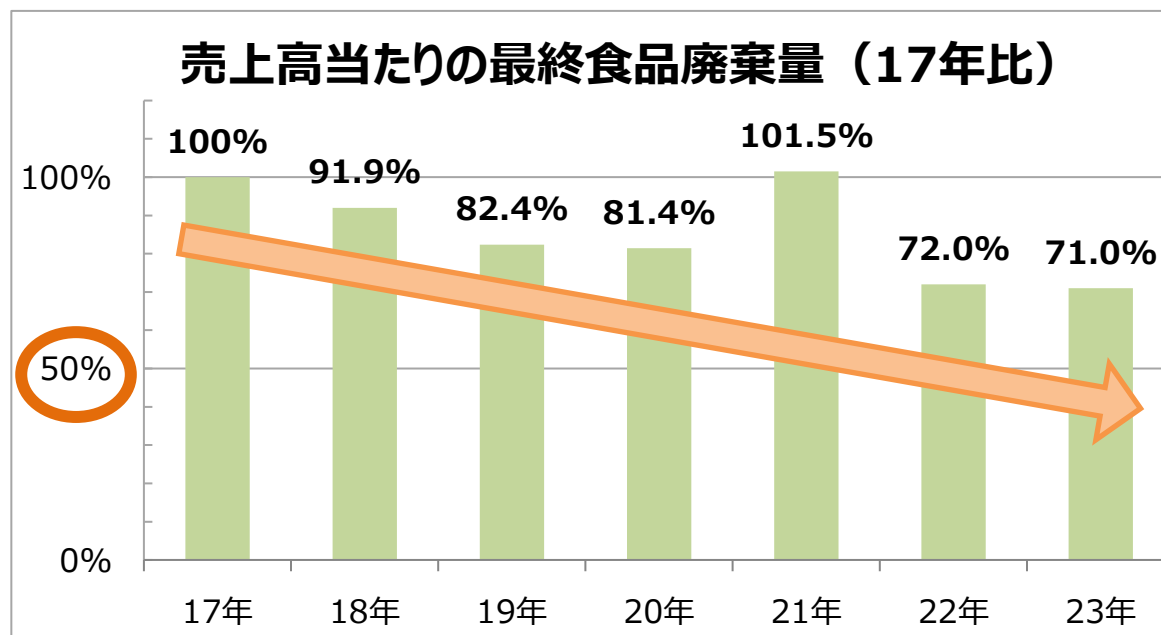
● 取り組む理由

日本で年間**472万t**（食品小売業で49万t・令和4年度）の食品廃棄が発生

- ・食品を多量に製造・販売する事業者としての社会的責任
- ・循環型社会の構築に貢献

● 目標

2030年までに2017年度売上高当たりの食品廃棄量を**50%**削減



食品廃棄削減 主な取り組み

- ① 食品残渣を活用したバイオガス発電事業
- ② 地域の子ども食堂等への食品寄贈
- ③ 販促物などによる呼びかけ
- ④ 食や環境に関する「出前授業」「店舗イベント」
- ⑤ 自治体と連携した商品開発

① 食品残渣を活用したバイオガス発電事業

プロセスセンターで発生する食品残渣を利用して発電



原料投入

食品残渣を投入



10トン投入

バイオガス発電機

二酸化炭素
排出抑制



バイオガス発酵槽



バイオガス
による発電

消化液処理設備

約90%の
廃棄物削減



発酵槽の保温に
発電機の排熱利用

1トンの廃棄物

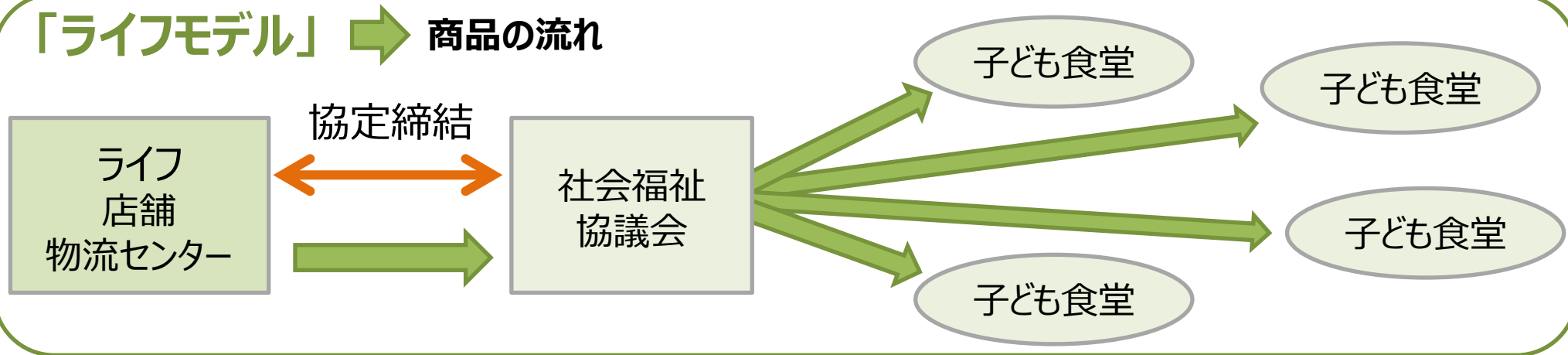
② 地域の子ども食堂等への食品寄贈

販売期限切れや外装の破損などで販売不可となった商品のうち、賞味期限内で安全な商品を出店地域の子ども食堂等に無償で提供

【提供商品例】



「ライフモデル」 → 商品の流れ



社会福祉協議会等と直接協定を交わす「ライフモデル」を確立。店舗毎に提供食品を用意しており、社会福祉協議会等が月1回来店し、商品を受け渡し。

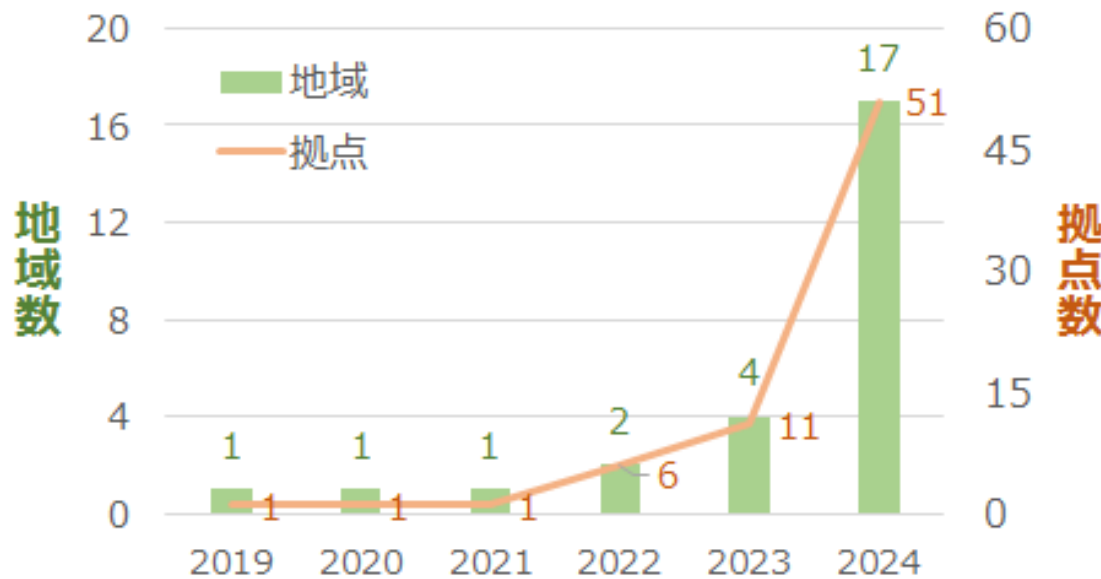


2030年50拠点（店舗または物流センター）での支援を
目標に、2019年から取り組みを開始

2025年1月現在、**17地域(市区町村)** **51拠点**で実施

2023年度の提供商品数は**20,000個以上**

子ども食堂等 支援地域・拠点

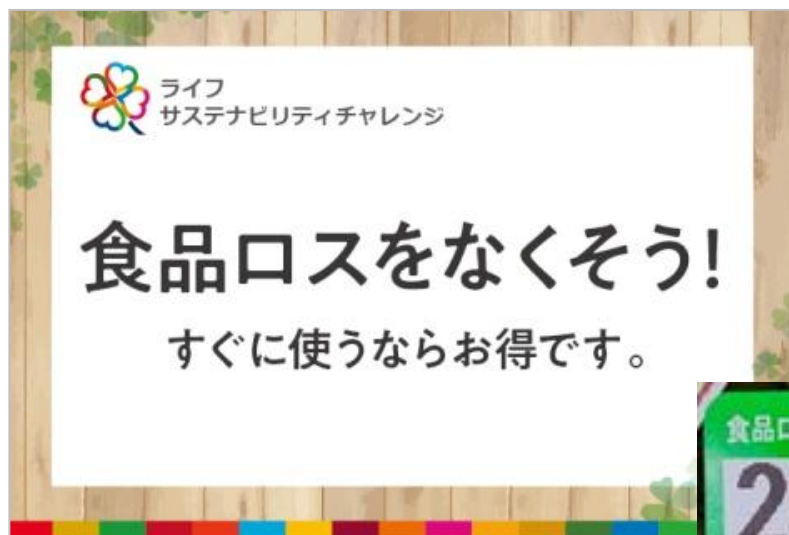


- **首都圏**：7地域16拠点
東京都（7地域16拠点）
- **近畿圏**：10地域35拠点
大阪府（6地域21拠点）
兵庫県（1地域9拠点）
京都府（1地域3拠点）
奈良県（2地域2拠点）

③ お客様へご協力のお願い 「販促物などによる呼びかけ」

● 見切り商品

- ・すぐに使うならお得です
- ・食品ロス削減にご協力をお願いします



● てまえどり

- ・すぐに使うなら“てまえどり”にご協力ください



④ 食や環境に関する「出前授業」「店舗イベント」

● 出前授業

出店地域の小学生・園児を中心に実施

【実施件数】201件 14,286人（2023年度）

【プログラム】三色食品群、食品ロス、環境学習、もったいない鬼ごっこ等



ライフオリジナル環境冊子「いっしょに未来を考える。の本」

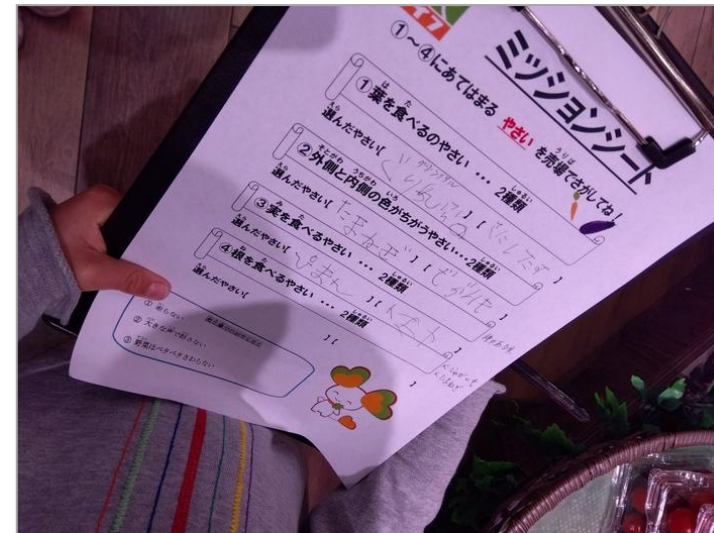


● 店舗イベント

「食の大切さ」や環境を学ぶ店舗イベントを小学生の親子を中心に実施

【実施件数】31件 848人（2023年度）
（内メーカーコラボ 首都圏8社 近畿圏5社）

【プログラム】三色食品群、食品ロス、お買い物ゲーム、たべものビンゴなど



⑤ 自治体と連携した商品開発

ライフオリジナル「大阪産（もん）」商品



- 大阪産(もん)
大阪府域で栽培・生産される農産物、畜産物、林産物、水産物と、それらを原材料として使用した加工食品

品質には問題がないものの、一般流通できない規格外の大阪産みかん、レモンを使用した「サステナブル」なお酒

2030年食品廃棄50%削減に向けた 今後の取り組み

① バイオガス発電施設

2025年3月より、関東圏でも稼働予定。
関東圏での食品廃棄量・CO2排出量削減にも取り組む。



② 子ども食堂等への商品寄贈

・**出店エリア内**(東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・京都・奈良) の市区町村で年間4~5地域の支援拡大を目指す

・**生鮮食品**提供の実証実験結果を踏まえ、実施を検討



③ 出前授業・店舗イベント

・当社事業に関連した内容で、「食の大切さ」などを伝える



④ 店頭での食品ロスを削減

・AIによる精度の高い発注を実施
 ・食品廃棄量や、廃棄金額の見える化を行い、各店舗の特徴に合わせた取り組みを実施

岡町店

自分事化
 見える化

共有スペース掲示板
 部門ごとの月別廃棄金額と昨比、廃棄率と昨差を掲示して数値の見える化

9月にキックオフミーティングを実施し、パートナーの方も含めた取り組み開始

一人ひとり提出

個人目標・個人取り組みを部門別で作成

部門別 食品廃棄削減への分別取り組み

部門別の取り組み・目標一覧

廃棄ロス金額昨比・廃棄率昨差の見える化



ライフコーポレーションは、

今後、

「持続可能で豊かな社会の実現」
に向けて取り組みを推進してまいります。

ご清聴ありがとうございました。

